SX

Sustainability（持続可能性）

SX-01

SDGs

用語の基礎情報

- Sustainable Development Goalsの略称「持続可能な開発目標」
- 2015年9月の国連総会にて全会一致で採択された17の目標
- 持続可能な開発のための2030アジェンダの行動計画として宣言
- 2016年～2030年の15年間で達成を目指す（前身はMDGs）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-01

SDGsは「未来へ向けての羅針盤」

SDGsの基本理念や目標には、大企業だけでなく、中小企業にとっても「事業を発展し続けるため」の重要な要素が含まれています。それらを本質的に理解して積極的に事業活動（商品・サービス・働き方）に取り込んでいくことこそが「持続可能な組織づくり」へ向けた道筋です。SDGsは「未来への羅針盤」と称されることもありますが、羅針盤を有効活用するには、目的地（経営の方向性や理想像）を定め、従業員に浸透させることが重要です。
MDGsはミレニアム開発目標（Millennium Development Goals）の略称で2001年～2015年の取り組みです。

（出典）経営戦略としてのSDGs・ESG経営／著・白井 旬（合同フォレスト）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-02

ESG

用語の基礎情報

- E(環境) S(社会) G(企業統治) に配慮した投資や経営のこと
- ESGの源流は1920年代アメリカの「社会的責任投資 (SRI)」から
- 2006年に国連事務総長コフィー・アナンが投資家・金融界に提言
- 「PRI (責任投資原則)」6原則のうち第1～第3には「ESG」の文言

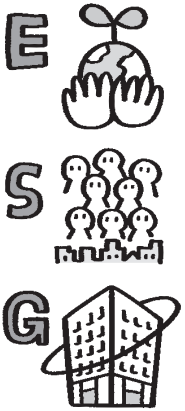
SX

Sustainability（持続可能性）

SX-02

企業経営ではESGに親和性

ESGは、従来の財務情報だけでなく、環境（Environment)・社会（Social)・企業統治（Governance) の要素も考慮した投資や経営のことを指します。特に、年金基金など大きな資産を超長期で運用する機関投資家を中心に、企業経営の持続可能性を評価するという概念が普及し、気候変動などを念頭においた長期的な危機管理や、企業の新たな事業創出の機会を評価する指標として、国連のSDGs（持続可能な開発目標）と合わせて注目されています。



（参考）経済産業省ホームページ（政策について▶政策一覧▶ エネルギー・環境 温暖化対策▶ ESG投資）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-03

ESD

用語の基礎情報

- Education for Sustainable Developmentの略称
- 2002年8月の世界首脳会議で日本政府とNGOが提唱し広がる
- 2005年から「持続可能な開発のための教育の10年」を開始
- 新学習指導要領の前文・総則に「持続可能な社会の創り手」を明記

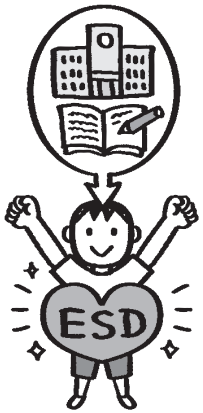
SX

Sustainability（持続可能性）

SX-03

ESDで思考・行動特性に変化

教育が変わると「思考・行動特性」や「強み・特技」などに変化が出るといわれています。今の若い世代は「ダンスなどの自己表現に長けている」という印象がありますが、これも2012年から中学校の体育ではダンスが必修化され、小学校では表現運動として取り入れられた効果といえるでしょう。2025年には、新たな就労感を持つ「ミレニアル世代」が就労人口の半数になるといわれており、企業の本質的な対応が求められています。



（出典）経営戦略としてのSDGs・ESG経営／著・白井　旬（合同フォレスト）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-04

CSV

用語の基礎情報

- Creating Shared Valueの略称「共有価値の創造」と訳される
- 米ハーバード大学教授マイケル・ポーター氏らが2006年に提唱
- 企業が本業を通じて社会的課題解決と経済的利益を共に追求する
- 社会的課題解決ではCSRは「守り」、CSVは「攻め」とされる

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-04

CSVは日本型経営にも通ずる

CSVは、「両利きの経営」（既存事業の改善と新規事業の実験の両立）の基盤ともなる経営戦略です。これまでの企業活動では経済的価値（特に短期）が優先された結果、環境破壊や人権侵害に繋がることが多くありました。そこで、企業が長期的視野に基づき、社会的価値（課題解決）と経済的価値（企業利益）との両立を目指したものがCSVです。これは近江商人の「三方よし」や、渋沢栄一の「道徳経済合一説」にも通ずる考え方です。CSRは企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）の略称。

（参考）サバイバル経営Q&A－ CSV・ESGとは?（2022/10/13）｜日経BizGate

SX Sustainability（持続可能性） SX-05

三方よし

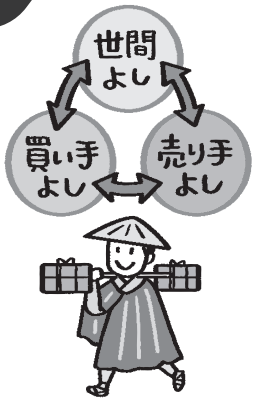
用語の基礎情報

- 戦国時代末期から江戸・明治時代に活躍した近江商人の教え
- 近江国を離れた他国で、商いを続けるための共存共栄モデル
- 表現のルーツは初代伊藤忠兵衛（伊藤忠商事の創業者）とされる
- 「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」で「三方よし」となる

SX Sustainability（持続可能性） SX-05

「三方よし」と「利益三分主義」

伊藤忠商事は、グループの経営理念を2020年4月から28年ぶりに「三方よし」に改訂。この言葉は、初代伊藤忠兵衛の座右の銘「商売は菩薩の業(行)、商売道の尊さは、売り買い何れをも益し、世の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの」をもとにしています。鳥井信治郎を創業者とするサントリーグループでは、事業で得た利益を「事業への再投資」「顧客サービス」「社会への貢献」に役立てる「利益三分主義」を長く大切にしています。



（参考）持続的な価値創造の原動力ー対談「三方よし」と伊藤忠商事 ｜ 伊藤忠商事HP
（参考）サントリーが考えるサステナビリティ経営 ｜ サントリーグループHP

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-06

論語と算盤

用語の基礎情報

- 渋沢栄一の「道徳経済合一説」や「合本主義」を本質的に示す言葉
- 「道徳（公益）と経済（利益）は両立させることができる」という考え
- 合本主義＝一人ひとりの資本は小さいが公益へ向けて合わされば大きな力になる
- 2024年からの1万円札（肖像：渋沢栄一）は「ユニバーサルデザイン」

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-06

100年以上前に実践＆体現

渋沢栄一が唱えた「道徳（公益）と経済（利益）は両立させることができる（仁義道徳と生産殖利とは、元来ともに進むべきもの）」という「道徳経済合一説」が言葉として明確となったのは1910年ごろ（70歳を迎えて実業界の第一線から退いた頃）と言われています。マイケル・ポーターらが唱えた「CSV」（SX-04カード参照）より、100年以上（渋沢が実業家となった33歳から一貫した考えだったとすればほぼ140年）も前に実践し、体現していたことになります。

（出典）経営戦略としてのSDGs・ESG経営／著・白井　旬（合同フォレスト）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-07

自利利他（利他の精神）

用語の基礎情報

- 利他の精神のもとはフランスの社会学者オーギュスト・コントが19世紀に提唱
- 利己主義（エゴイズム）に対する概念として造られた言葉「オルトイズム」から派生
- 日本では「オルトイズム」の訳語として仏教用語の「自利利他」を当てはめた
- 江戸時代の経世家・二宮尊徳が唱えた「たらいの水の原理」に同じ

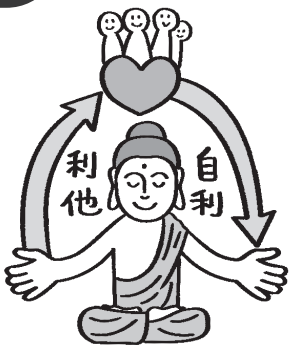
SX

Sustainability（持続可能性）

SX-07

SDGs・ESGは内側から外側へ

「自利利他」（仏道修行により得た功徳を自分が受け取るとともに、人々の救済のために尽くす）の考えは、「SDGsウオッシュ」を防ぐことにも繋がります。内側の経営課題を抱えたまま（例．長時間労働、男性と女性の格差など）、外側の社会課題（例．脱炭素、脱プラスチックなど）ばかりを解決しようとすると長期的には無理が生じることがあります。自利（自社の利益）を達成しつつ、利他（社会の利益）を推進する「内側から外側へ」のスタンスをお勧めします。



（参考）当カード付属解説書【コラムその２】SDGsウオッシュとは？

（参考）サバイバル経営Q&A－SDGsウオッシュって何？（2022/11/24）｜ 日経BizGate

（出典）経営戦略としてのSDGs・ESG経営／著・白井 旬（合同フォレスト）

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-08

陰徳善事

用語の基礎情報

- 「三方よし」と並び、近江商人が長く大切にしてきた「経営理念」
- 自己顕示や見返りを期待せず、人に知られぬよう善行を施すこと
- ESGや人的資本経営の流れで非財務情報の積極的な開示が重要に
- 現代社会ではむしろ「陽徳善事」で取組みを発信するのが望ましい

SX

Sustainability（持続可能性）

SX-08

“陰”徳善事から“陽”徳善事へ

「陰徳善事」とは「人に知られないように善行を施すこと。陰徳はやがては世間に知られて、陽徳に転じることとなる」や「自己顕示や見返りを期待しない」という意味も含みます。これも「三方よし」と並び、近江商人が大切にした「在り方」です。なお、SNSを中心とする情報発信＆双方向型社会では「脱：陰徳善事（いわば、陽徳善事）」で共感を呼び起こし仲間を増やすことが重要で、SDGsの目標17番「パートナーシップで目標を達成しよう」にも通じます。

（出典）経営戦略としてのSDGs・ESG経営／著・白井　旬（合同フォレスト）